

地方都市における町内会の類型

——岡山市の事例——

野 邊 政 雄

1 本稿の目的

岡山市では、市街地は主に同市の中心部にあり、周辺には農村地域が広がっている。近年、周辺地帯はベッド・タウンとなり、この地帯へ新たな住民層が大量に流入し、人口の増加がみられる。他方、中心部の市街地の人口が減少している（岡山市市長公室広報課 1990, p. 3）。このドーナツ化現象のために、岡山市の中にも、住民の職業構成と居住形態において様々な種類の地域が生まれた。そして、それぞれの地域では、町内会⁽¹⁾は運営や活動形態において相違していると考えられる。本稿は、このような町内会の様相の一端を、住民の職業構成と居住形態における違いと関連させながら、検討しようとするものである。

この解明のために、岡山市における町内会のアンケート調査を実施した。本稿では、このデータを利用して、地方都市である岡山市の町内会を、地域の特徴を勘案しつつ類型化し、同市における町内会の運営や活動形態の実相を把握しようとするものである。

2 岡山市について

明治22年の市政施行によって、岡山市が成立した。その後、順次隣接する町村を編入し、市域を拡大していった。最近では、昭和44年に西大寺市、昭和46年に一宮町、津高町、高松町、吉備町、妹尾町、福田町、上道町、興除村及び足守町の9町村、昭和50年に藤田村を合併した（図1）。平成元年12月現在、岡山市の総面積は510.72km²、人口585,293人、世帯数209,599世帯である（岡山市総務局事務管理課統計係 1991）。

市街地は同市の中心部にある。（同市の中心部にある、昭和29年4月の合併によってできた地域を、岡山地区と本稿では呼称する。）そして、先述した何回にもわたる周辺市町村の合併のために、岡山市の周辺部には広大な農村地帯が広がっている。同市南部の興除・藤田地区は干拓でできた稲作地帯であり、農業機械化が進捗した地帯として有名である。西部の高松・福田・吉備地区では蕎麦、一宮・津高地区では温室葡萄を産する。北西部の足守地区では、メロンが特産品である。東部の上道地区は露地葡萄、西大寺地区は露地葡萄、苺、ジャガイモの産地である。

表1は昭和50年以降の岡山市における人口推移を、表2は世帯数の推移を、各地区ごとに示している。同表より、岡山市の周辺地帯である一宮・吉備・上道・妹尾・藤田・福田地区では、近年人口増加が著しいことが判る。

市内のある地域で世帯数が増加し、別のある地域でそれが減少することが絶えず起こっている。世帯数増加のために、1つの町内会がいくつかの町内会に分裂することがあった。逆に、世帯数減少から、いくつかの町内会が1つの町内会に統合されることもあったようである。様々な変遷を辿った結果、現在1,454の町内会が岡山市で組織されている⁽²⁾。

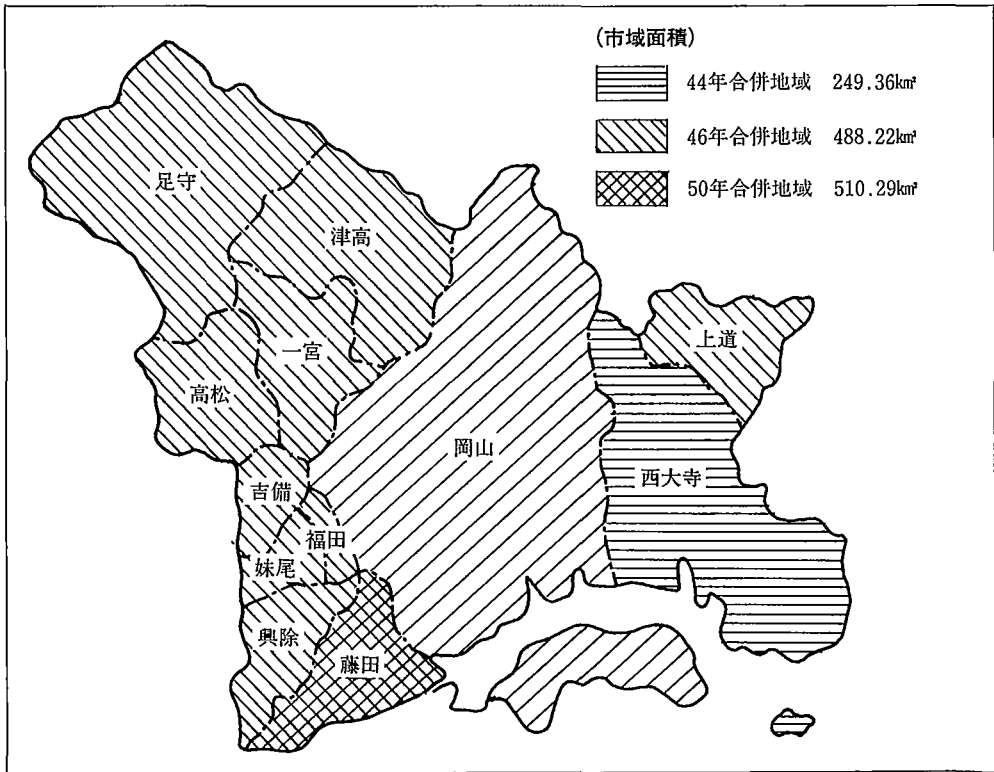


図 1 岡山市域の拡大

表 1 岡山市内の人口の変化 (単位 人)

	昭和50年12月末(1)	昭和55年12月末	昭和60年12月末	平成元年12月末(2)	(2)/(1)
岡 山 地 区	356,498	362,537	372,730	384,030	1.08
西大寺地区	56,809	60,230	61,521	61,790	1.09
一 宮 地 区	14,990	17,473	19,561	20,734	1.38
津 高 地 区	12,262	13,899	14,838	15,097	1.23
高 松 地 区	13,994	15,249	15,605	15,705	1.12
吉 備 地 区	13,497	16,605	18,378	19,388	1.44
興 除 地 区	8,791	10,143	11,127	11,472	1.30
上 道 地 区	8,542	8,896	11,244	12,908	1.51
足 守 地 区	9,024	10,561	8,754	8,539	0.95
妹 尾 地 区	10,429	11,824	13,626	14,541	1.39
藤 田 地 区	5,297	6,628	7,874	8,666	1.64
福 田 地 区	8,582	10,779	11,714	12,423	1.45
合 計	518,715	544,824	566,972	585,293	1.13

(注) 住民基本台帳による。

(出典) 岡山市総務局事務管理課統計係 『岡山市の統計』 昭和51年版, 昭和56年版, 昭和61年版, 平成2年版。

表2 岡山市内の世帯数の変化 (単位 世帯)

	昭和50年12月末(1)	昭和55年12月末	昭和60年12月末	平成元年12月末(2)	(2)/(1)
岡 山 地 区	116,311	122,683	139,711	148,038	1.27
西大寺地区	16,729	17,789	18,743	19,251	1.15
一 宮 地 区	4,059	5,039	5,798	6,313	1.56
津 高 地 区	3,403	4,091	4,542	4,770	1.40
高 松 地 区	3,694	4,165	4,373	4,558	1.23
吉 備 地 区	4,020	5,056	5,641	6,154	1.53
興 除 地 区	2,212	2,869	2,975	3,187	1.44
上 道 地 区	2,297	2,497	3,240	3,782	1.65
足 守 地 区	2,433	2,741	2,655	2,667	1.10
妹 尾 地 区	2,852	3,413	4,223	4,805	1.68
藤 田 地 区	2,227	2,977	3,307	3,581	1.61
福 田 地 区	1,375	1,806	2,209	2,493	1.81
合 計	161,612	175,123	197,417	209,599	1.30

(注) 住民基本台帳による。

(出典) 岡山市総務局事務管理課統計係『岡山市の統計』昭和51年版, 昭和56年版, 昭和61年版, 平成2年版。

3 従前の研究の検討

町内会は、日本の都市における伝統的な地縁集団である。一定地域に居住する世帯は、すべて町内会に加入することが期待され、もしくは強制される。そして、町内会は、(1)親睦(運動会、祭礼、慶弔など)、(2)共同防衛(防火、防犯、清掃など)、(3)環境整備(下水、街灯、道路の管理・維持)、(4)行政補完(行政連絡の伝達、保険料のとりまとめ、募金協力)、(5)圧力団体(行政への陳情、要望)といった機能を果たしている(菊池 1973, pp.134-35)。

ところで、ワース(Wirth 1938)は都市において社会解体が起こるというアーバニズム論を主張した。つまり、都市では住民の異質性や移動性などが高まるので、地域社会で社会関係を取り結ぶことが困難になり、その統合が脆弱化すると考えた。これに対し、町内会の如き地域結合が日本の大部分の都市にみられるという事実は、アーバニズム論の普遍性に反証を提供した。

これまでの研究は、町内会が地域網羅性と多機能性という共通の特性を持ちながらも、地域や時代によって、差異が大きいことを示してきた。そこで、都市社会学者は、地域集団の類型設定を行い、町内会の多様性を把握しようとした。菊池(1973, pp. 140-46; 1977, pp. 44-47)は、これまでに提起された地域集団類型を(1)伝統型地域集団、(2)旧中間層型地域集団、(3)新中間層型地域集団、(4)コミュニティ型地域集団の4つに整理した。

住民の大部分が地域社会に昔から居住しているので、相互に面識があり、日常的な交際や相互扶助がよく行われている地域に、伝統型地域集団は形成される。この類型の特質を挙げれば、第一に、緊密な近隣関係に基づいた、慣行的運営がなされていることである。例えば、町内会の規約は制定されておらず、町内会は不文の慣行によって運営される。第二に、住民は地域集団に付き合いとか義理とかいう地域規範に強制されて参加するのであって、個人の自発性や主体性に基づいての参加ではない。そこでは、共同体的規制が強い。現在、大都市の下町や地方都市の市街地に、これらの名残を見いださう。

旧中間層型地域集団は、流動化・異質化・広域化によって、伝統型地域集団が再編成される過程で形成される。これは、商店と住宅が混交した地域に典型的にみられる。この類型の特質を挙げれば、第一に、この地域に多数の新中間層が居住するようになることによって、住民相互の結合が希薄化するので、共同体的慣行による町内会運営は不可能となる。そこで、運営上の制度化がなされると共に、民主化が進む。例えば、各種部会の設置や町内会規約の制定などがなされる。第二に、新住民である新中間層は、地域社会にほとんど関心を持たないが、町内会加入が社会規範化していることから、その多くは町内会に自動的に加入する。だが、彼らは、町内会運営を地元旧中間層に白紙委任するので、商店主の旧中間層が少数派でありながら、支配権を維持している。

新中間層型地域集団は、新中間層が大量に居住する団地に典型的にみられる。この類型の特質は、第一に、集団運営が民主化していることである。第二に、共同体的規制が弱体化している。例えば、加入が個人の自発的意志によっているので、組織率が低い。第三に、住民は権利意識が強く、生活侵害に敏感で、生活侵害に対して、運動をしばしば組織する。第四に、町内会は、消毒、清掃、街灯管理、保険料・税金の取りまとめ、行政からの文書伝達など、本来行政が自らの責任で行うべき事業の下請けや肩代りを一般的に行うことは、既述した。これに対して、団地地域では住民の権利意識が強いことから、町内会が行政の代行・補完活動を行うことを住民が拒否する。

将来、創出されるべき類型として、コミュニティ型地域集団が提起されている。これは、新中間層型地域集団から発展すると考えられている。この類型の特質は、第一に、参加において、住民の自発性が尊重されることである。第二に新中間層型地域集団は、権利要求に傾斜しやすいけれど、コミュニティ型地域集団は用具的機能（共同防衛、環境整備、行政補完といった活動）だけでなく、親睦的機能をも担うことである。

本稿では、岡山市における町内会の類型を構成し、それぞれの運営や活動形態を明確にする。そして、菊池によって整理された、上述の地域集団の類型と比較することによって、岡山市の町内会が、従来、一般的に受容されてきた図式と合致しているか否かを検証する。

4 調査方法

岡山市市長公室自治振興課が管理している岡山市の「町内会名簿」を台帳にし、これに記載された1,454の町内会から3分の1に当たる485を系統抽出法で抜き取った。

調査は郵送法によって実施した。平成2年1月24日に調査票を485の町内会長宛に郵送し、自己記入の上、返送を依頼した。せっかく返送されても、記入漏れの質問が多かったので、電話でそうした質問を質し、未記入回答を最小限にするように努めた。全質問の半数ほどしか記入していない調査票が少数あったが、これらを分析不能と判断し、棄却した。本稿で分析した標本数は436であり、回収率は89.9%であった。

5 分析方法

本稿の分析は、次の四段階から成る。

第一段階として、町内会のある地域を分類する。先述した、菊池の提示した4つの地域集団がある地域は、住民の職業構成と居住形態において相違していることが想定されている。つまり、伝統型地域集団は自営業者の居住する地域で成立し、旧中間層型地域集団は商店と住宅が混交した地域で組織されるという。また、新中間層型地域集団は団地に典型的にみられるという。従って、(1)町内会のある地域における、自営業者の割合と、(2)町内会が団地を単位として組織されているかを、町内会がある地域の分類基準にする。更に、町内会のある地域の分類にはその他の基準も必要に思われた。「住民自治組織調査」に先立

って筆者が行った聞き取りによれば、アパート・マンションの多い地域では、住民の町内会への未加入や地域社会への無関心が社会問題となっていた。また、前述のように、本稿は、岡山市周辺部の農村地帯で組織されている町内会をも研究対象とした。そこで、町内会のある地域における(1)アパート・マンションの割合と、(2)農家の割合を、地域分類の基準に含めることに思い至った。

「住民自治組織調査」では、回答者である町内会長に町内会がある地域の住民の職業構成と居住形態を尋ねた。この情報に基づいて、地域を分類する。標本である町内会から、団地を単位として組織されているものをまず抜き出す。次に、残りの町内会のある地域を、地域の全世帯のうち、(1)専業ないし兼業で農業をしている割合、(2)商店を地域内で経営している割合、(3)アパート・マンションに住んでいる割合という、3つの指標に基づいて、クラスター分析をする。そして、町内会のある地域を分類した。標本数が大きいので、マッキーンズのk-平均クラスター法(Anderberg 1973, pp.162-63)を利用する。

第二段階では、町内会のある地域の種類によって、町内会の運営方法が相違しているかを検討する。「住民自治組織調査」では、町内会の運営について様々な点を質した。これらの回答が、クラスター分析で分類された各地域で、どのように分布するかを検討する。

第三段階では、町内会のある地域によって、町内会の活動形態が相違しているかを検討する。つまり、町内会の行っている活動についての回答が、各地域でどのように分布しているかを吟味する。

第二段階と第三段階では、クラスター分析で分類された諸地域が、相互に町内会の運営や活動形態において類似ないし相違しているかを検討する。第四段階では、これらの検討に基づいて、町内会の類型を設定する。

6 結果の提示

(1) クラスター分析

まず、町内会のある地域を分類した。標本である436の町内会から、団地を単位として組織されている町内会81を抜き出した。そして、叙上の3つの指標を用いて、残りの町内会のある地域をクラスター分析で分類した⁽⁴⁾。マッキーンズのk-平均クラスター法では、クラスターの数を事前に指定しておく。指定するクラスター数を様々に変更して、クラスター分析を行った。この結果の検討によると、クラスターを4つにした時、結果を最も矛盾なく解釈できた。そこで、クラスターを4つ設定することにした。それぞれのクラスターは「住宅地域」、「商業地域」、「アパート・マンション地域」、「農業地域」と解釈できた。先述した「団地地域」と合わせて、都合5つの地域に、町内会のある地域は分類された。標本の町内会436のうち、住宅地域の町内会は186、商業地域のそれは26、アパート・マンション地域のそれは12、農業地域のそれは126、団地地域のそれは81であった。回答者が地域の特性について答えなかったために、5つの町内会のある地域は分類が不能であった。

表3は、5つに分類された町内会のある地域それぞれにおける、農家の割合、商店の割合、アパート・マンションの割合の平均と標準偏差を示している。分散分析によれば、5つの地域は3つの指標において相互に相違していた。

次に、それぞれのクラスターに分類された地域は、岡山市内でどのように分布しているかを検討する。表4は、岡山市内の地区ごとに5つのクラスターの分布を示している。町内会は、同市の中心部である岡山地区に集中していた。詳述すれば、岡山地区には、分類が可能であった431の町内会のうち226があった。このうち56.7%は住宅地域であり、農業地域はわずか8.3%にすぎなかった。商業地域ないしアパート・マンション地域として分類された地域は全体では少数であったけれども、ほとんどが岡山地区にあった。岡山市近郊

表3 各地域における世帯の職業構成と居住形態の違い（単位 %）

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平 均	F 値
農業を営む世帯の割合	3.8 (6.1)	0 (0)	0.4 (1.7)	50.0 (9.9)	4.6 (13.6)	17.2 (23.0)	607.18**
商店を経営する世帯の割合	6.8 (8.0)	2.6 (2.9)	46.8 (10.6)	2.2 (3.0)	3.2 (8.4)	7.1 (12.5)	224.56**
アパート・マンションに居住する世帯の割合	15.6 (14.9)	74.3 (16.4)	22.7 (16.8)	2.7 (5.0)	15.8 (30.6)	13.9 (21.1)	51.92**

(注) 下段の括弧内の数字は標準偏差。

** $p < 0.01$

表4 各地域の岡山市内における地理的分布

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域
岡 山 地 区	137	11	25	20	33
西大寺地区	18	1	1	45	17
一 宮 地 区	2	0	0	5	2
津 高 地 区	1	0	0	5	2
高 松 地 区	6	0	0	9	3
吉 備 地 区	6	0	0	2	6
興 除 地 区	1	0	0	7	1
上 道 地 区	0	0	0	9	4
足 守 地 区	4	0	0	11	1
妹 尾 地 区	9	0	0	4	5
藤 田 地 区	2	0	0	5	6
福 田 地 区	0	0	0	4	1

の西大寺、一宮、津高、高松、興除、上道、足守、藤田、福田では、様相が全く異なっていた。これらの地区内にある町内会の地域の半分以上は、農業地域として分類された。そして、残りの町内会の地域は、住宅地域か団地地域であった。

岡山市の周辺部にある広大な農村地帯は、市街化区域と市街化調整区域に区分されている。市街化区域では、住宅地としての小規模な土地売買が自由にできるので、地付きの農家と混在して来住者の住宅が建設されてゆくことが多い。しかし、岡山市の周辺部の多くは市街化調整区域に指定されている。この指定を受けている区域を住宅地として開発するとき、市役所の許可が必要である。通例、公団ないし業者が大規模にこの種の土地を団地として整備し、住宅地として一般の人々に売却する。このため、岡山市周辺部には、農業地域と共に、団地地域が多いのである。ただし、同市周辺部の妹尾・吉備地区は交通の便が良いので、一般の住宅地化が進展している。

岡山市における諸地域の地理的分布を単純化して図示すると、図2のようになろう。中心部に住宅地域、商業地域、アパート・マンション地域があり、周辺部に農業地域と団地地域がある。

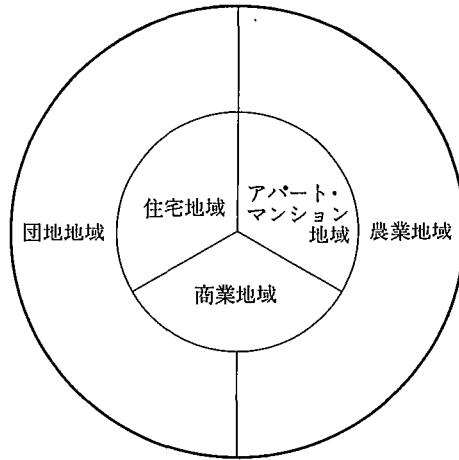


図2 諸地域の地理的分布

(2) 町内会の運営

ここで、次の5つの視点から町内会の運営を検討する。つまり、(1)部会、(2)規約、(3)加入世帯率、(4)罰則、(5)総会である。これらについてのデータは、表5に示した。

表5 町内会運営 (単位 %)

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平均	χ^2 値
部会がある	72.0	50.0	76.9	58.7	79.0	69.1	13.63**
規約がある	77.4	83.3	88.5	54.0	93.8	74.5	47.85**
区域内の世帯は全部加入する	53.2	50.0	46.2	85.7	79.0	67.1	47.92**
全世帯の91%以上が加入している	68.3	58.3	57.7	98.4	96.3	81.4	71.09**
消掃に参加しない場合罰則がある	12.9	8.3	11.5	16.7	42.0	19.3	34.18**
過去1年間に総会開催	79.6	41.7	92.3	90.5	86.4	83.8	24.03**
総会出席率80%以上	20.4	0	15.4	46.0	49.4	32.5	42.65**

(注) 各地域において、該当する町内会の割合を示す。

該当と非該当に2分した町内会の運営項目と、地域の種類によって5分した町内会とを組み合わせ、クロス集計表を作成し、これに χ^2 検定を行った。従って、自由度は4である。

** $p < 0.01$

まず、町内会における各種部会の組織状況が、5つに分類された町内会の地域で相互に相違しているかを検討する。表5によれば、住宅地域、商業地域、団地地域では、多くの町内会が各種部会を組織していた。

次に、町内会に規約があるかどうかを調べる。表5によると、農業地域の町内会の54%のみが規約を持っていたにすぎなかったが、残りの地域では格段に多くの割合の町内会が規約を制定していた。農業地域では、伝統的な慣行に基づいて、町内会は運営されているといえる。

それから、町内会への加入状況をみる。表5は、町内会の地域内の世帯は、全部、町内会に加入することになっている割合を示している。農業地域と団地地域では、約80%の町内会が全戸加入を原則としているが、その他の地域では約50%の町内会がそうであるにすぎなかった。現実の加入率においても、地域による差異があった。同表は、町内会の地域

内の世帯の何パーセントぐらいが町内会に加入しているかを示している。農業地域や団地地域では、91%以上の地域内の世帯が加入している町内会は95%以上に昇る。その他の地域では、こうした町内会は70%以下であった。農業地域や団地地域では、町内会加入を原則にしており、かつ現実にはほとんど全世帯がそれに加入していた。

更に、町内会の共同体的性格は、清掃に参加しなかった場合の罰則にもみられると思われるので、これについても検討する。表5によれば、団地地域で、そうした場合に罰則が課せられることが多かった。

最後に、総会についてみると、アパート・マンション地域で過去1年間に総会を開催した町内会は41.7%と低いけれど、その他の地域では80%以上の町内会は総会を開催していた。農村地域や団地地域では、総会の出席率が高かった。ただし、表5には委任状を出した人も出席した割合の中に入れられているので、実際の出席率はもっと低い。

(3) 町内会の活動

町内会の活動の実態を様々な視点から探究することができよう。ここでは、次の5つの視点から、町内会の活動を分析する。(1)町内会として行っている活動、(2)会員が割合多く参加したり、協力したりする活動、(3)会員があまり参加しなかったり、協力しなかったりする活動、(4)町内会が市役所へ行った陳情・要望の内容、(5)町内会の支出。

まず、町内会として行っている活動を検討する。表6は、各地域の町内会のうち、それぞれの活動を行っている町内会の割合を示している。岡山市の標本全体では、市と住民の連絡と募金の協力が91%以上の町内会で行っているきわめて一般的な活動であったので、これらの活動については地域間で有意な差異はなかった。これらに次いで、街灯管理、清掃、慶弔の世話が71-90%の町内会で行われていた。逆に、献血の協力、国民年金保険料のとりまとめ、国民健康保険料のとりまとめ、簡易保険の団体加入、交通整理は、20%未満の町内会でしか行われていなかった。

実施している活動において、多くの活動項目は、地域間で差異があった。そこで、それぞれの地域の町内会ごとに考察してゆく。

住宅地域では、市と市民の連絡、街灯管理、清掃、募金の協力、運動・レクリエーション・旅行、慶弔の世話は、71%以上の町内会で行われていた。そして、41-70%の町内会は、消防援助、成人式・敬老会、住民生活に関する陳情・要望、盆踊り・祭を実施していた。この地域における町内会が活動の各項目を実施している割合は、標本全体の平均にほぼ近かった。

アパート・マンション地域では、71%以上の町内会が、市と市民の連絡、募金の協力、慶弔の世話を、次いで41-70%の町内会が、街灯管理、清掃、成人式・敬老会、運動・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭を行っていた。この地域の町内会は、共同防衛機能や環境整備機能をあまり果たしていなかった。つまり、夜警や下水道の管理を全く行っていなかった上に、消防援助、街灯管理、清掃、道路の維持・修繕を行っていた町内会の割合は、標本全体のそれより20%以上低かった。また、この地域の町内会は、陳情・要望をほとんど行っていなかった。

商業地域では、71%以上の町内会は、市と住民の連絡、街灯管理、清掃、募金の協力、運動・レクリエーション・旅行、慶弔の世話を、41-70%のそれは、消防援助、町内会の財産管理、成人式・敬老会を行っていた。ここでは、活動項目を行う町内会の割合は、標本全体のそれとかなり近かった。ただし、下水道の管理や消毒の割合だけが、20%以上低か

表6 町内会として行っている活動(単位: %)

	住宅地域	アパート・ マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平均	χ^2 値
市と住民の連絡	90.3	91.7	88.5	92.9	88.9	90.7	1.21 N.S.
消防(援助)	46.2	33.3	53.8	74.6	48.1	55.0	29.16**
夜警(又はその経費の負担)	16.7	0	23.1	27.0	18.5	20.0	8.41 N.S.
下水道の管理	18.3	0	3.8	28.6	39.5	23.9	25.11**
街灯管理	84.9	50.0	73.1	69.8	74.1	76.8	15.73**
清掃	83.3	41.7	73.1	73.0	95.1	80.7	29.09**
消毒	36.0	33.3	15.4	28.6	63.0	37.6	32.35**
道路の維持・修繕	18.8	8.3	26.9	47.6	25.9	28.8	33.64**
町内会の財産管理	34.4	33.3	53.8	45.2	34.6	38.7	6.95 N.S.
神社の管理	21.0	33.3	19.2	34.9	13.6	23.9	14.94**
募金(の協力)	89.8	100.0	88.5	90.5	93.8	91.0	2.55 N.S.
献血(の協力)	7.5	8.3	3.8	11.9	11.1	9.3	2.96 N.S.
成人式・敬老会	42.5	50.0	53.8	42.1	44.4	43.6	1.55 N.S.
運動・レクリエーション・旅行	72.0	58.3	73.1	42.9	70.4	62.9	31.54**
国民年金保険料のとりまとめ	12.9	8.3	19.2	24.6	9.9	16.0	11.25*
国民健康保険料のとりまとめ	14.0	8.3	19.2	17.5	2.5	13.0	11.44*
簡易保険の団体加入	14.5	16.7	30.8	5.6	2.5	10.7	23.53**
交通整理	12.4	16.7	11.5	11.9	16.0	13.0	1.06 N.S.
住民生活に関する陳情・要望	48.4	8.3	34.6	64.3	44.4	50.3	22.25**
盆踊り・祭	61.3	58.3	38.5	51.6	65.4	57.8	8.84 N.S.
慶弔(の世話)	85.5	91.7	96.2	57.9	87.7	78.7	47.24**
その他の活動	9.1	0	3.8	3.2	9.9	7.0	6.50 N.S.

(注) それぞれの地域において、おのおの活動を行っている町内会の割合を示す。

該当と非該当に2分した町内会の活動項目と、地域の種類によって5分した町内会とを組み合わせクロス集計表を作成し、これに χ^2 検定を行った。従って、自由度は4である。

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, N.S. 両者の間に関連がない。

った。

農業地域では、71%以上の町内会は市と住民の連絡、消防援助、清掃、募金の協力を行っていた。そして、41-70%の町内会は、街灯管理、道路の維持・修繕、町内会の財産管理、成人式・敬老会、運動・レクリエーション・旅行、住民生活に関する陳情・要望、盆踊り・祭、慶弔の世話をしていた。この地域の町内会の特徴は、共同防衛や環境整備に関するある種の活動や陳情・要望活動をより頻繁に行うことである。つまり、消防援助、道路の維持・修繕、住民生活に関する陳情・要望を行っていた町内会の割合は、標本全体のそれよりも約15%高かった。だが、運動・レクリエーション・旅行を行っている町内会の割合は、標本全体のそれより20%低かった。

団地地域では、71%以上の町内会が、市と市民の連絡、街灯管理、清掃、募金の協力、慶弔の世話を、次いで41-70%の町内会が、消防援助、消毒、成人式・敬老会、運動・レクリエーション・旅行、住民生活に関する陳情・要望、盆踊り・祭を行っていた。この地域の町内会は、下水道の管理、清掃、消毒といった共同防衛や環境整備活動を行うことが多かった。

次に、町内会会員が割合多く参加したり、協力したりする活動を検討する。表7は、各

表7 会員が割合多く参加したり、協力したりする町内会活動（単位：%）

	住宅地域	アパート・ マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平 均	χ^2 値
消防(援助)	20.4	16.7	34.6	42.9	25.9	28.8	20.13**
夜警(又はその経費の負担)	6.5	0	19.2	15.9	11.1	10.7	10.45*
下水道の管理	12.4	0	0	16.7	24.7	14.8	14.07**
街灯管理	31.7	16.7	30.8	17.5	27.2	26.2	8.79 N.S.
清掃	67.2	33.3	38.5	57.9	86.4	65.4	32.99**
消毒	14.5	0	11.5	9.5	33.3	16.0	25.00**
道路の維持・修繕	9.7	0	11.5	36.5	9.9	17.4	46.06**
募金(の協力)	69.4	50.0	50.0	68.3	66.7	66.8	5.51 N.S.
献血(の協力)	1.6	0	0	4.0	8.6	3.5	9.81 N.S.
成人式・敬老会	29.6	0	26.9	21.4	23.5	25.1	7.07 N.S.
運動・レクリエーション・旅行	65.6	58.3	57.7	34.1	56.8	54.1	30.59**
交通整理	5.9	0	7.7	5.6	6.2	5.8	0.95 N.S.
簡易保険の団体加入	8.1	0	19.2	2.4	0	5.3	20.10**
盆踊り・祭	53.2	33.3	30.8	41.3	48.1	46.9	8.25 N.S.
慶弔(の世話)	73.7	58.3	80.8	57.1	66.7	67.5	11.95**
その他の活動	6.5	8.3	7.7	4.8	4.9	5.8	0.81 N.S.

(注) それぞれの地域において、「会員が割合多く参加したり、協力したりする活動」としてそれぞれの活動項目を挙げた町内会の割合を示す。

該当と非該当に2分した町内会の活動項目と、地域の種類によって5分した町内会とを組み合わせ、クロス集計表を作成し、これに χ^2 検定を行った。従って、自由度は4である。

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, N.S. 両者の間に関連がない。

地域の町内会のうち、それぞれの活動項目をそうした活動として挙げた町内会の割合を示している。岡山市の標本全体では、清掃、募金の協力、慶弔の世話に61-70%の町内会で住民が多く参加していた。次いで、運動・レクリエーション・旅行と盆踊り・祭に、41-60%の町内会で、住民が多く参加していた。反対に、献血の協力、交通整理、簡易保険の団体加入は、10%未満の町内会でそうした活動であると挙げられたにすぎなかった。

会員が割合多く参加したり、協力したりする町内会活動において、多くの活動項目は、地域間で違いがあった。そこで、それぞれの地域の町内会ごとに検討してゆく。

住宅地域の61%以上の町内会において、清掃、募金の協力、運動・レクリエーション・旅行、慶弔の世話に、多くの住民が参加していた。次いで、31-60%の町内会で街灯管理がそうであった。この地域では、住民が多く参加する活動項目ごとの町内会の割合は、標本全体のそれとかなり近かった。ただし、運動・レクリエーション・旅行がそうした活動として挙げられた割合は、標本全体のそれよりも10%以上高かったというように、親睦活動がここでは盛んであった。

アパート・マンション地域の31-60%の町内会では、清掃、募金の協力、運動・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭、慶弔の世話に多くの住民が参加していた。だが、ここにおける町内会活動は、全般的に不活発であった。つまり、多くの住民が参加する活動として挙げた町内会の割合が、標本全体のそれよりも10%以上低かった活動項目は、消防援助、夜警、下水道の管理、清掃、消毒、道路の維持・修繕、募金の協力、成人式・敬老会、盆踊り・祭と多かった。

商業地域では、慶弔に多くの住民が参加する町内会の割合は、81%であった。次いで31-60%の町内会では、消防援助、街灯管理、清掃、募金の協力、運動・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭が、多くの住民が参加する活動であった。多くの住民が参加する活動として挙げた町内会の割合が、標本全体のそれよりも10%以上高かった活動項目は、簡易保険の団体加入と慶弔の世話であり、10%以上低かった活動項目は、下水道の管理、清掃、募金の協力、盆踊り・祭であった。

農業地域の61%以上の町内会において、募金の協力で多くの住民が参加していた。次いで、31-60%の町内会で消防援助、清掃、道路の維持・修繕、運動・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭、慶弔の世話がそうであった。この地域の町内会では、ある種の共同防衛や環境整備活動が盛んであった。つまり、消防援助や道路の維持・修繕に多くの住民が参加する町内会の割合が標本全体のそれよりも10%以上高かった。他方では、運動・レクリエーション・旅行に多くの住民が参加する町内会の割合が標本全体の割合より20%も低いことに示されるように、親睦活動が沈滞していた。

団地地域の61%以上の町内会において、清掃、募金の協力、慶弔の世話に多くの住民が参加していた。次いで、31-60%の町内会で消毒、運動・レクリエーション・旅行、盆踊り・祭がそうした活動であった。この地域の町内会では、ある種の共同防衛や環境整備活動が盛んであった。つまり、下水道の管理、清掃、消毒に多くの住民が参加する町内会の割合が標本全体のそれよりも著しく高かった。

それから、会員があまり参加しなかったり、協力しなかったりする活動を吟味する。表8は、各地域の町内会のうち、それぞれの活動項目をそうした活動として挙げた町内会の割合を示している。岡山市の標本全体では、住民があまり参加しない町内会活動は、少なかった。夜警、献血の協力、簡易保険の団体加入だけがそうした活動項目として10%以上の町内会によって挙げられたにすぎなかった。そこで、地域による差異はほとんどなかった。ただし、アパート・マンション地域では、たくさんの活動項目がそうであったことは着目に値する。つまり、夜警、消毒、献血の協力、盆踊り・祭、慶弔の世話が25%以上の町内会で住民があまり参加しない活動項目であった。この中でも、住民が盆踊り・祭にあまり参加しない町内会は、42%にも昇った。

更に、町内会の陳情・要望の内容を分析する。町内会が市役所に提出した陳情・要望は多岐にわたっていたが、ここでは標本全体の10%以上の町内会（44町内会以上）が提出したかなり一般的なものののみを取り上げる。下水道の管理、街灯管理、道路の維持・修繕、交通整理、用水路の修理・管理の5つがそうした陳情・要望であった。表9は、それぞれの陳情・要望を寄せた町内会の割合を示している。道路の維持・修繕という陳情・要望においてのみ地域的な相違がみられた。農業地域では、道路の維持・修繕を市役所に陳情・要望することが極めて多かった。

最後に、町内会の支出を検討する。表10は、各地域で、それぞれの支出項目を上位の3つとして挙げた町内会の割合を示している。農業地域の町内会では、消防援助に支出することが多かったけれども、その他の地域の町内会は、運動会・レクリエーション・旅行や盆踊り・祭といった親睦活動へ多くの支出を振り向けていた。

(4) 町内会の類型の構成

クラスター分析によって析出した5つの町内会の運営や活動形態における特質を要約することより、次の5つの類型を構成できる。(1)住宅地域の町内会、(2)アパート・マンション地域の町内会、(3)商業地域の町内会、(4)農業地域の町内会、(5)団地地域の町内会。

住宅地域の町内会では、各種部会が設置され、規約が制定されているという点で、運営

表 8 会員があまり参加しなかったり、協力しなかったりする町内会活動（単位 %）

	住宅地域	アパート・ マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平 均	χ^2 値
消防(援助)	10.2	8.3	11.5	1.6	7.4	7.2	9.24 N.S.
夜警(又はその経費の負担)	15.6	25.0	7.7	7.1	7.4	11.4	9.35 N.S.
下水道の管理	11.3	8.3	7.7	7.9	2.5	8.4	5.80 N.S.
街灯管理	7.5	8.3	7.7	4.0	2.5	5.6	3.85 N.S.
清掃	9.7	16.7	15.4	2.4	0	6.3	18.23**
消毒	7.0	25.0	0	2.4	3.7	5.1	14.83**
道路の維持・修繕	11.3	16.7	3.8	6.3	3.7	8.1	6.96 N.S.
募金(の協力)	6.5	0	11.5	6.3	1.2	5.6	5.79 N.S.
献血(の協力)	11.8	25.0	15.4	11.9	8.6	11.8	3.10 N.S.
成人式・敬老会	2.7	16.7	3.8	4.8	2.5	3.7	6.92 N.S.
運動・レクリエーション・旅行	6.5	8.3	11.5	7.1	12.3	8.1	3.20 N.S.
交通整理	8.1	16.7	11.5	4.8	4.9	7.0	4.39 N.S.
簡易保険の団体加入	11.3	16.7	11.5	14.3	4.9	11.1	4.79 N.S.
盆踊り・祭	4.8	41.7	15.4	3.2	6.2	6.3	31.99**
慶弔(の世話)	2.2	25.0	0	2.4	2.5	2.8	23.01**
その他の活動	0.5	0	0	0.8	2.5	0.9	2.78 N.S.

(注) それぞれの地域において、「会員があまり参加しなかったり、協力しなかったりする活動」としてそれぞれの活動項目を挙げた町内会の割合を示す。

該当と非該当に 2 分した町内会の活動項目と、地域の種類によって 5 分した町内会とを組み合わせでクロス集計表を作成し、これに χ^2 検定を行った。従って、自由度は 4 である。

** $p < 0.01$, N.S. 両者の間に関連がない。

表 9 町内会が取り次いだ陳情・要望の内容（単位 %）

	住宅地域	アパート・ マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平 均	χ^2 値
下水道の管理	15.1	0	7.7	7.9	19.8	13.0	9.26 N.S.
街灯管理	13.4	0	11.5	10.3	7.4	10.9	3.77 N.S.
道路の維持・修繕	31.7	16.7	23.1	46.0	29.6	34.6	12.08*
交通整理	12.9	16.7	7.7	9.5	7.4	10.7	2.75 N.S.
用水路の修理・管理	13.4	8.3	7.7	21.4	9.9	14.6	7.73 N.S.

(注) 各地域で、それぞれの陳情・要望を会員から市に取り次いだ町内会の割合を示す。

該当と非該当に 2 分した陳情・要望の項目と、地域の種類によって 5 分した町内会とを組み合わせでクロス集計表を作成し、これに χ^2 検定を行った。従って、自由度は 4 である。

* $p < 0.05$, N.S. 両者の間に関連がない。

表10 それぞれの支出項目を上位の3つとして挙げた町内会の割合(単位 %)

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平均
消防(援助)	9.7	0	15.4	40.5	13.6	19.5
夜警(又はその経費の負担)	1.1	0	0	2.4	3.7	1.9
下水道の管理	4.3	0	7.7	5.6	13.6	6.5
街灯管理	41.4	41.7	19.2	19.0	29.6	31.3
清掃	17.2	16.7	0	13.5	28.4	17.2
消毒	0	0	0	2.4	0	0.7
道路の維持・修繕	2.7	0	0	13.5	3.7	5.8
町内会の財産管理	5.4	8.3	3.8	10.3	8.6	7.4
神社の管理	9.7	16.7	11.5	10.3	2.5	8.8
成人式・敬老会	19.9	16.7	34.6	20.6	18.5	20.6
運動・レクリエーション・旅行	73.7	50.0	69.2	34.9	65.4	59.9
交通整理	1.1	0	0	0.8	0	0.7
盆踊り・祭	41.4	41.7	42.3	25.4	50.6	38.5
慶弔(の世話)	19.4	41.7	34.6	11.1	19.8	18.6
その他	26.9	41.7	46.2	41.7	19.8	31.3

(注) 各地域で、それぞれの支出項目を上位の3つとして挙げた町内会の割合を示す。

上の制度化や民主化がなされている。町内会加入も個々の世帯の意向に任されていることより、共同体的規制が希薄化しているといえる。町内会の総会は開催されるが、その出席率が低い。住民の参加や町内会の支出からみて、親睦活動が盛況である。

アパート・マンション地域の町内会では、規約が制定されているという点で、運営上の制度化や民主化がなされている。町内会加入が個々の世帯の意向に任されている意味で、共同体的規制が弱体化している。町内会の総会が開催されないことが多い。たとえそれが開かれても、出席率が低い。町内会活動は極めて停滞し、住民はそれにあまり参加しない。

商業地域の町内会は、住宅地域の町内会に、運営や活動形態で類似している。商業地域の町内会は親睦活動を行うが、住宅地域の町内会ほど多くの住民が親睦活動に参加しているわけではない。

農業地域の町内会では、部会が設置されておらず、規約も制定されていないという点で、運営上の制度化や民主化がなされていない。町内会加入は、一定地域の居住に伴って自動的であることから、共同体的規制が残存しているといえる。町内会は総会を開催すると共に、その出席率が高い。町内会は共同防衛、環境整備、陳情・要望活動をよく行うが、親睦活動は盛んでない。

団地地域の町内会では、部会が設置されており、規約も制定されている点で、運営上の制度化や民主化がなされている。町内会加入は、一定地域の居住に伴って自動的であることから、共同体的規制が強いといえる。町内会は総会を開催すると共に、その出席率が高い。町内会は共同防衛や環境整備活動をよく行い、親睦活動に多額の支出をする。

7 結果の検討

当初に提示した菊池の図式に基づいて、本稿の結果を検討した。この検討の中から、次の4点に言及しておく。

第一に、住宅地域と商業地域の町内会は、運営や活動形態の点で、類似している。つまり、運営上の制度化や民主化がなされて、ムラの状況が希薄化している。このことを考慮

すると、両地域の町内会は、菊池の提示した旧中間層型地域集団に近い。とりわけ、住宅地域の町内会では、親睦活動が盛んである。

こうした運営や活動形態は、次のように説明されよう。まず、前述のように、住宅地域と商業地域では、新中間層が来住するようになり、住民の社会関係が弱まる。そこで、不文の慣行による町内会運営は難しくなる。このため、運営の制度化が行われると共に、来住層の要求もあって民主化が行われる。次に、住宅地域と商業地域の多くは、市街地として長い期間経過しているので、社会資本（道路、下水道、街灯、公園など）や行政サービス（市役所による、消防、ゴミ回収など）が整備されている。地域生活は既に円滑に運んでいるから、住民に町内会加入や町内会活動への参加を強制する必要性は低い。最後に、基本的な社会資本や行政サービスが整備されているので、町内会の活動は地域住民の統合を目指した親睦に重点が置かれる。

第二に、農業地域の町内会では、慣行的運営がなされる。また、町内会への加入は、一定地域居住に伴って自動的である。このように、そこではムラの状況が残存している。だから、農業地域の町内会は、菊池の伝統型地域集団に該当しよう。町内会活動の重点は、共同防衛、環境整備、陳情・要望活動にある。

こうした運営や活動形態は、次のように説明される。まず、農業地域では、多くの住民が同じ地域に昔から居住しているので、緊密な近隣関係が取り結ばれている。そこで、これを基礎に慣行的運営がなされる。次に、農村地帯である岡山市周辺部では、社会資本や行政サービスが未だ十分に整備されていない⁽⁴⁾。行政の不備を補完すべく、町内会は共同防衛機能や環境整備機能を果たす。更に、地域社会の住民が町内会の下に団結して、これらの活動を行うことによって、住民は生活を営むことができる。だから、農業地域においては、町内会への加入は一定地域の居住に伴って自動的であると共に、町内会は地域のほとんどの住民を網羅している。最後に、農村地帯では、村内を走る道路（とくに、農道）を村民の共同作業で維持するという道普請の慣行が残存している。町内会が一部の村内の道路を実質的に管理しているから、町内会がその維持・修繕のための助成などの陳情・要望を市役所に行く。従って、この種の陳情・要望が農村地域の町内会で多いと推測される。

ところで、農業地域では、慶弔の世話を町内会でやっていない。これは、そうした地域では、町内会とは別の組織である講組がしばしば残存しているからである。そして、慶弔の世話は講組の担当であり、町内会の活動としてあまり取り組まれていないのである（鯨坂 1989, p. 100 ; 片山 1991）。しかし、これは住民が慶弔に出席しないということではない。むしろ、農業地域では、それへの出席率が最も高い（表11）。

表11 住民の慶弔への参加（単位：%）

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平均	χ^2 値
ほとんど参加	49.5	41.7	50.0	86.5	53.1	60.8	11.10 N.S.
半分くらい	42.5	33.3	38.5	11.1	34.6	31.3	
ほとんど参加しない、全く参加しない	6.4	25.0	11.5	0.8	8.6	6.1	

（注）「慶弔の場合、町内会の人々はよく参加されますか」という質問に対する回答の、各地域における分布。

合計が100%にならないのは「答えなし」や「わからない」という回答があるからである。

N.S. 両者の間に関連はない。

第三に、団地地域の町内会は、菊池のいう新中間層型地域集団の典型と考えられていた。町内会の中に各種部会が設置され、伝統的な慣行でなく、規約に基づいて町内会が運営されている。この側面では、運営上の制度化や民主化が進んでおり、新中間層型地域集団に

近いといえる。

しかし、本稿の結果は、団地地域の町内会に関する従来の見解を覆すものである。まず、新中間層型地域集団では加入が自発的意志によっているというように、共同体的規制が脆弱化しているといわれていた。だが、本稿の結果によれば、団地地域では、町内会に自動的に加入すべきと考えられている。現実にも、団地地域の町内会の加入率は、農業地域のそれに比肩するほど高い。また、清掃に参加しない場合、罰則を設けていることが著しく多いのも団地地域の町内会である。これらの事実を考慮すると、共同体的規制が弱体化しているとは必ずしもいえない。次に、新中間層型地域集団では住民は強い権利意識を持っているので、行政の代行・補完活動を拒否するといわれていた。しかし、本稿の結果によれば、団地地域の町内会では、共同防衛や環境整備といった行政の代行・補完活動が盛んである。

こうした運営や活動形態は、次のように説明される。まず、先述のように、岡山市では団地は周辺の農村地帯に造成されることが多い。新興地であるので、社会資本や行政サービスがまだ十分に整備されていないことがしばしばである。住民は、町内会を結成して、行政と交渉したり、自ら協力して不十分な社会資本や行政サービスを補完してゆくことに迫られる。だから、町内会は共同防衛や環境整備の活動をよく行う。例えば、新しい団地に住民が転入した直後、住民は市役所によるゴミ回収のためにゴミステーションを設置したり、町内の安全のために街灯を設置する。また、団地の多くは岡山市の周辺にあるので、市役所が下水道を整備していない。そこで、町内会が下水道の管理をせざるをえない。次に、社会資本や行政サービスが不足しているので、住民が町内会の下に纏まり、そうした仕事を実行して初めて、住民は地域社会で生活を営みえる。それゆえ、町内会への加入は個々の世帯の意向と係わりなく、自動的にとならざるをえない。最後に、伝統のない団地地域では親密な近隣関係が農村地域ほど形成されていないので、親密な社会関係に実行意欲を高められ、住民が共同防衛や環境整備といった町内会活動へ自発的に参加することはあまり期待できない。そこで、罰則を設けて住民に町内会活動へ参加を強制することが起こる。

以上を要約すれば、次のようになる。岡山市の団地地域では、町内会運営が必ずしも民主化されてはいないし、町内会は共同防衛や環境整備活動をよく行っている。この予想に反する知見は、社会資本や行政サービスが十分に整備されていないという、岡山市の団地地域の特別な状況に由来すると考えられる。

以上のようにみてゆくと、団地地域と農業地域の町内会は、共同防衛や環境整備といった活動を行ったり、共同体的規制が強く働くという点で類似している。しかし、2つの相違点があることを忘れてはならない。第一に、前述のように、団地地域の町内会では、運営上の制度化が進展しているが、農業地域の町内会では、そうではない。第二に、農業地域の町内会では、運動・レクリエーション・旅行は、団地地域の町内会ほど盛んでない。団地地域の町内会が、その活動をしている割合は、住宅地域や商業地域のそれにかかなり近いことを勘案すると、住民の職業構成がこの相違を生み出したと考えられる。つまり、非農家層が運動・レクリエーション・旅行といった町内会の親睦活動を組織するのに熱心なのだと推測される。

第四に、本稿の結果によれば、住宅地域、商業地域、農業地域、団地地域の町内会では、様々な活動が行われ、かなりの住民もそれに参加していることから、住民は地域社会で町内会に多少とも統合されているといえる。だが、アパート・マンション地域では、町内会活動は極めて停滞し、住民はそれに最も参加していない。ここでは、地域社会の統合が弱体化しているといえる。菊池の図式では予想されなかった町内会の類型である。そして、

ワース流のアーバニズム論は、日本ではこうしたアパート・マンション地域の居住者に該当する⁽⁵⁾。

アパート・マンション居住者が地域社会での交際に熱心でないことに、2つの理由がある。まず、アパート・マンションでは、鍵1つで家庭を地域社会から隔離し、プライバシーを保持できる。子供がいないなどの理由から、それに意義を認める多数の人々が、アパートやマンションに居住している。次に、アパート・マンション地域は、大部分、岡山市の中心部に位置している。そこでは、基本的な社会資本や行政サービスが既に整備されているので、住民たちが纏まって、市役所に陳情・要望を寄せたり、共同防衛活動や環境整備活動を行う必要があまりない。そこで、彼らは地域社会と係わることなく、生活することができる。

8 結 論

本稿の目的は、地方都市である岡山市の町内会を類型化することにより、町内会の実態を子細に把握することであった。町内会のある地域の特性に関するデータをクラスター分析の手法で解析し、地域を5つに分類した。5つに分類された地域にある町内会が相互に、その運営や活動形態で類似ないし相違しているかを考察し、(1)住宅地域の町内会、(2)アパート・マンション地域の町内会、(3)商業地域の町内会、(4)農業地域の町内会、(5)団地地域の町内会の5つの類型を設定した。

結果の考察から、次の5つの知見を得た。

(1)町内会の運営や活動状況は、それがあ地域域の特性によって影響を受ける。

(2)住宅地域や商業地域の町内会では各種部会が設置され、伝統的慣行でなく、規約に基づいて町内会が運営されている。町内会加入は個々の世帯の意向に任されている。とりわけ、住宅地域の町内会では、親睦活動が盛んである。

(3)農業地域の町内会では、各種部会が設置されておらず、伝統的慣行に基づいて町内会が運営されている。また、町内会への加入は、一定地域居住に伴って自動的である。町内会活動の重点は、共同防衛、環境整備、陳情・要望活動にある。そして、親睦活動が盛んでない。

(4)団地地域の町内会では各種部会が設置され、伝統的な慣行でなく、規約に基づいて町内会が運営されている。そこでは、町内会への加入は一定地域居住に伴って自動的であると共に、大部分の住民がそれに加入している。町内会は共同防衛や環境整備活動を主に行っている。

(5)アパート・マンション地域では、規約に基づいて町内会が運営されている。そして、町内会加入は個々の世帯の意向に任されている。しかし、町内会活動は非常に停滞し、住民もそれに最も参加していない。

注

(1) 都市で結成されているこの種の住民自治組織は、「町内会」や「自治会」と通例呼ばれている。本稿では、以後「町内会」と統一して呼ぶ。

(2) 町内会が、通常、小学校区ごとに纏まって、学区(地区)連合町内会を結成している。1,454の町内会が都合94の学区(地区)連合町内会に統合されている。94の学区(地区)連合町内会が更に纏まって、岡山市連合町内会を結成している。

(3) 回答者は、5パーセントきざみの選択肢の中から、最も当てはまるものを1つ選び出した。「地域の全世帯のうち、専業ないし兼業で農業をしている割合」と「商店を地域内で経営している割合」の2つの質問に用意した最大の割合の選択肢は「51%以上」であったのに対し、「地域の全世帯のうち、アパート・

マンションに住んでいる割合」の質問に用意した最大の割合の選択肢は、「91%以上」であった。選択肢で示したパーセントの幅の中間値を用いて、クラスター分析を行った。例えば、選択肢の「1-5%」には、中間値0.03の値を与えた。

- (4) 岡山市内では、社会資本や行政サービスの供給において地域間格差が存在する。例えば、公共下水道の普及率は、岡山市全体で37.2%である（岡山市総務局事務管理課統計係 1991）。しかし、現在、それが設置されているのは、同市中心部の岡山地区の一部のみであり、同市周辺部では全く設置がなされていない。
- (5) アパート・マンション地域における町内会が沈滞していることは、過去と比較した現在の町内会の活動状況の評価によっても明確である（表12）。その地域では、以前よりも活動しなくなってきたという町内会が著しく多い。

表12 現在の町内会活動と過去のそれとの比較（単位 %）

	住宅地域	アパート・マンション地域	商業地域	農業地域	団地地域	平均	χ^2 値
活発になってきた	33.9	0	30.8	31.0	25.9	30.4	59.07**
変わらない	52.7	66.7	53.8	59.5	58.0	56.1	
活動しなくなってきた	13.4	33.3	15.4	9.5	14.8	13.2	

（注）「町内会の活動は、段々活発になってきたと思いますか、それとも段々活動しなくなってきたと思いますか」という質問に対する、各地域における回答の分布を示す。

合計が100%にならないのは「答えなし」や「わからない」という回答があるからである。

** $p < 0.01$

引用文献

鯉坂学, 1989, 「地方都市の町内会—岡山県津山市の事例—」, 『社会文化研究』第15巻, 広島大学総合科学部。

Anderberg, Michael R. 1977. *Cluster Analysis for Application*. New York: Academic Press.

片山宣利, 1991, 「地域住民自治の現状」, 岡山大学教育学部卒業論文。

菊池美代志, 1973, 「居住空間と地域集団」, 倉沢進編『社会学講座 5 都市社会学』, 東京大学出版会。

菊池美代志, 1977, 「地域集団」, 山根常男他編, 『テキストブック社会学 5 地域社会』, 有斐閣。

Wirth, Louis. 1938. "Urbanism as a way of life." *American Journal of Sociology*, Vol.44. (高橋勇悦訳, 「生活様式としてのアーバニズム」, 鈴木広編, 『都市化の社会学』, 1965, 誠信書房, 所収)。

（本論文は、両備檀園記念財団助成研究の成果の一部である。）

（平成3年6月5日受理）